関西大学心理学研究　2022年　第13号　pp.67-82

性別違和であるFTMとMTF対するイメージの違い
── 非当事者に対する半構造化インタビュー調査から ──

陳　　曦　関西大学大学院心理学研究科
守　谷　　順　関西大学大学院心理学研究科
脇　田　貴　文　関西大学大学院心理学研究科

Differences in image between FTM and MTF as gender dysphoria
—Semi-structured interviews with non-participants—

Xi CHEN　(Graduate School of Psychology, Kansai University)
Jun MORIYA　(Graduate School of Psychology, Kansai University)
Takafumi WAKITA　(Graduate School of Psychology, Kansai University)

The purpose of this study is to clarify the process of perception and image of gender dysphoria by non-participants. Participants were three male and three female participants working in mainland China, for a total of six (*M* =26.8, *SD* =1.33). Semi-structured interviews were conducted. The interview data was analyzed with The Modified Grounded Theory Approach (M-GTA). As a result, four category groups were generated:【recognition of the name gender dysphoria】【overall image of gender dysphoria】【image of FTM】and【image of MTF】. Furthermore, it was shown that 8 categories and 36 concepts were extracted.

Keywords: FTM (Female to Male), MTF (Male to Female), image (Semi-structured interviews) Modified Grounded Theory Approach (M-GTA)

問題と目的

近年，各国のダイバーシティ政策の推進により，トランスジェンダー（transgender）の概念が浸透しつつある。また，東京オリンピックの開催により，トランスジェンダーというキーワードが再び大衆の視野に入り，トランスジェンダー選手が五輪に出場するのが史上初だということも話題となった。

トランスジェンダーとは，出生時に指定されたジェンダーと性自認との間に不一致が生じている者を指す（東，2018；西野，2014）。DSM-5（APA, 2013）では、このような者に対して、性別違和（gender dysphoria）という言葉を使用している。性別違和の分類[1]においては，主に指定されたジェンダーが女性だが性自認が男性のFTM（Female to Male）と，指定されたジェンダーが男性だが性自認が女性のMTF（Male to Female）に分けられている（Worthen, 2013）。

これまで、性別違和に対する質的研究は主に当事者視点から問題を捉え、性別に対する違和感を当事者自身内部のものとして見ている（町田，2018）。例えば，荘島（2008）は、ナラティヴ・アプローチを用いて、約3年の縦断的インタビューを通して、あるFTM当事者が「性別違和者である」と語らなく

なっていく変容過程を調べた。また、この当事者の心理過程をくいちがい・つなぎ・はなれという3つのモデルで再検討した（荘島，2009）。また、社会面、精神面もしくは心理面から生じた性別違和当事者自身の葛藤を描いている研究も数多く見られた（天野・佐々木・松本・大守，2019；松嶋，2013；丸井，2020；鈴木，2018）。一方，性別違和をFTMとMTFに分けて検討する質的な研究も見られた。西野（2011，2014）は，半構造化インタビュー法を採用しながら、FTMとMTF当事者自身の性別移行後の社会適応再構築プロセスを検討していた。そして，当事者自身が直面している様々な問題を示している。

ところで、性別違和当事者が自身の性別に違和感を覚える要因を探求するには、当事者自身の視点から描出するだけでは十分ではないと思われる。性に関する発達理論では、性別に違和感を覚える要因として生理学的、心理学的，社会文化的要因が考えられる（Ruble, Martin, & Berenbaum, 2006）。生理学的な要因を強調する場合は、自分の身体構造、外見、第一次および第二次性徴などに対する当事者自身の嫌悪感が重要な要因のひとつと考えられる。また、心理学的要因を強調する場合は、当事者自身の認知に関わっていることが考えられる。そして、社会文化的要因は、主に性別違和者が置かれている社会環境または他者のジェンダースキーマ理論に関わっていると考えられ、常に変化している個人の価値観と他者が獲得しているジェンダー規範（男女二元制など）に左右されている（康，2017）。先述の通り、今までの当事者研究は主に当事者の生理学的，心理学的要因の語りを総合的に眺めていような印象が見られる。よって、社会文化的な視点から性別違和当事者が直面している葛藤を検討する必要性があると考えられる。

このように、性別違和当事者の葛藤と関連している社会文化的要因に目を向けると、性別違和ではない非当事者が抱えている認知や、価値観、イメージなどを検討する必要が考えられる。現在まで、性別違和に対する非当事者の認知やイメージなどを測っている研究も数多く見られたが、いずれも量的な手法から始まり、性別違和をFTMとMTFに分けず、全体として検討している研究がほとんどである（日向・高田谷・近藤，2007；福岡，2015；森・柳川・石丸，2021）。一方，性別違和に対する態度を測る尺度を用いて，FTMとMTFに対する態度を示している研究も多く見られている。例えば、異性愛者はFTMの人と比べ，MTFの人に対する不快感，言語的なからかい，暴力衝動などのネガティブイメージをより強く示している（Hill & Willoughby, 2005; Winter et al., 2008; Gerhardstein & Anderson, 2010; Glotfelter & Anderson, 2017; Chen & Anderson, 2017）。よって，非当事者たちのFTMとMTFに対する態度が異なっていることが示唆されている。しかし，FTMまたはMTFに対して，非当事者たちは具体的にどのような考えを持っているのか，2つのタイプにおいて，どの側面を重視しているのか，MTFに対してよりネガティブな態度を示す理由は何か，今現在まだ十分解明されていない。そのため，社会文化的要因を強調する一方，性別違和をFTMとMTFに分けて検討する必要性も考えられる。また，FTMとMTFに分けることによって、社会的文脈の中で非当事者が異なる当事者に対して，異なるイメージを示すことが考えられる。そして，今後の当事者支援の実践に示唆を与えるものとして，意義あるものと考えられる。

中国人の非当事者が性別違和に対するイメージ

中国では，質的な視点から，性別違和に対するイメージを検討した研究は少ないが，量的な研究においては，性別違和に対する非当事者の態度を検討した研究はいくつか見られた。例えば，中国の大学に在籍している1762名の大学生を対象者として，LGBTに対する認知度を調査した研究では，ほとんどの大学生はLGBTの存在に消極的，または中立的なイメージを抱えていることがわかった。そのうち，性別違和の存在を受け入れる割合は16.8%（307/1762）であり，性別違和と恋愛関係でいられる割合は12.6%（222/1762）であった。さらに，LGBTに対する態度の違いは性別，学級，生まれ育った地域と親の教育レベルと関連していることも示唆されている（張・遅・呉・王・王，2012）。

また，中国の大学生と日本の大学生を対象に，トランスジェンダーの当事者に対する意識調査を行った研究では，中国でのトランスジェンダーに対する受容度の低さをうかがわせる結果となっている。河嶋（2018）の研究では，「身体の性と反対の性別を生きる人たちのことをどう思うか」という質問に「おかしくない」と答えた日本人は8割以上であったが，「おかしくない」と答えた中国人は5割しかいなかっ

た。その結果から，中国大学生の方がよりトランスジェンダーに対する認知度が低いことが示唆される。また，陳（2022a）は，日中大学生の性別違和に対する態度調査では，日本人の大学生と比べ，中国の大学生の方がより低い受容度を示していることが見られた。中国人は古い時代から，仏教と儒教に深く影響され，伝統的な思考観念と道徳観念を持っている（Winter et al., 2009）。よって，性別違和に対する態度においては，中国人はより高いネガティブなイメージを示していることが考えられる。そのため，本研究では，低い受容度を表している中国人を対象者として調査を行う意義が大きいと考えられる。

本研究の目的

そこで本研究では，非当事者の視点から、性別違和に対する認知とFTMまたはMTFに対するイメージの違いの概念を生成することを目的とした。中国で働いている性別違和ではない非当事者を対象に半構造化インタビュー調査を実施し，性別違和であるFTMとMTFに対する認知とイメージを明らかにした。

方　法

研究対象者の選定とインフォームド・コンセント　本研究の対象者は，著者の知人と知人から紹介された中国で働いている6名の社会人である。研究対象者の依頼は，中国の「WeChat」を使い，PDF形式の研究協力の説明書をモーメンツ[2)]に投稿し，本調査への協力を依頼した。その後，研究対象者にPDF形式の同意書を送信し，文章による調査の同意を得た。インタビューの実施は，ビデオ通話機能を持つ「WeChat」で実施した。インタビューの実施時間は40分～60分であった。また，インタビュー内容を録音することを書面と口頭で同意を得た。調査終了後，「WeChat」の送金機能を使い，一人ずつ1000円（中国人民元：65元）の謝礼を渡した。

調査の手順とリサーチクエスチョン　2019年8月にかけてインタビュー調査が行われた。インタビュー調査にあたり，事前に質問内容を作成した。質問内容は，筆者と大学教員2名，心理学専攻の大学院卒業生1名との協議によって決定した。質問内容はTable 1の通りである。

インタビュー開始前に，改めて研究協力の説明書を読み上げ，対象者よりインフォームド・コンセントを得た。続いて，インタビューアーが個室でノートパソコンを使い，研究対象者に聞き取りを行った。インタビューの内容はノートパソコンのボイスメモで記録され，発語内容を逐語記録として書き起こした。研究対象者はTable 1で示した内容をもとに自由に語ってもらった。

分析手続き　本研究では健康問題または生活問題を抱えた人たちに援助を提供するヒューマン・サービス領域を研究中心に，人間と人間の社会的相互作用の検討に適している修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（M-GTA）（木下，2003）の分析手続きを参考にし，最低限の分析過程の信頼性を確保した。また，筆者と大学院教員2名が参加した複数回の議論を経て，インタビュー・ガイドを作成し，内容的妥当性を図った。

データの分析　研究対象者に対し1対1の半構造

Table 1　インタビュー・ガイド

			質問内容
A：性別違和という名称に対する認識			①聞いたことはあるか、初めて聞いたのはいつ ②初めて聞いた内容と気持ち ③現在の気持ち ④同性愛者との区別 ⑤性別違和の分類
B：性別違和へのイメージ	⑥接触の有無	ある	⑦-Aa：接触したタイプ（FTM；MTF）との関係 ⑦-Ab：接触したタイプ（FTM；MTF）に対するイメージ ⑦-Ac：別のタイプ（FTM；MTF）に対するイメージ
		ない	⑦-Ba：間接接触したタイプ（FTM；MTF）について ⑦-Bb：間接接触したタイプ（FTM；MTF）に対するイメージ ⑦-Bc：別のタイプ（FTM；MTF）に対するイメージ

化面接法を用いてインタビューを行った。得られたインタビューデータをもとに，修正版グラウンテッド・セオリーアプローチ（M-GTA）（木下，2003）を参考に，分析を行った。得られたデータから逐語記録を作成し，記述をコード化した。そして，コードからデータの意味を概念化し，概念同士の関係性を抽出し，カテゴリー図を作成した。

倫理的配慮　本研究は，プライバシー情報と倫理面に対し配慮を行った。研究対象者に対しては，インタビューに先立ち，インフォームド・コンセントを行い，インタビューの目的，方法，調査参加は自由意志であることなどの内容について書面と口頭で説明を行った。また，研究協力の説明およびインタビュー内容を録音することの同意を取得した。なお，本研究開始前に研究の倫理審査申請書を関西大学大学院心理学研究科研究・教育倫理委員会に倫理審査を受け，承認を得てから実施された（承認番号：＃119）。

結果と考察

研究対象者の属性

研究対象者には，男性3名，女性3名（平均年齢26.8歳，*SD*＝1.33）合わせて6名の非当事者中国人が含まれることとなった。各対象者の属性は以下のTable 2に示している通りである。

分析テーマの設定

M-GTAでは，明らかにしたい問題の意義を最初から最後まで一貫しているのが分析テーマである（木下，2016）。分析の成否は分析テーマの設定に左右されるという（木下，2007）。インタビューデータ収集後，データ分析の方向と視点を確認するため，分析テーマを設定した。木下（2003，2007）によって，分析テーマはデータ分析を始める中で行っていく作業であり，初期段階から最終段階まで繰り返し検討

Table 2　研究対象者の属性

	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん	Fさん
年齢	26歳	27歳	27歳	29歳	25歳	27歳
性別	女性	女性	男性	男性	男性	女性
職業	公務員	教師	貿易関係	ジャーナリスト	販売員	公務員
接触経験	なし	なし	あり	あり	なし	あり
居住地域	五線都市	五線都市	五線都市	一線都市	一線都市	一線都市

Table 3　分析ワークシート例

概念名	同性愛者との混同
概念定義	性別違和者と同性愛者の区別がわからない
バリエーション（具体例）	Bさん：うん…実は，今，ちょっと，混同している。ゲイの場合は，その人の性別認識は男性なの？それともやはり心は女性なの？だってさ，ゲイの中にもさ，そういう感じの人がいるだろう（笑）。だから，ちょっと混乱している。だから，いきなり，イメージを聞かれると，一体ゲイに対するイメージ（を考える）なのか？それともMTFに対するイメージ（を考える）なのか？ちょっと混乱してる。（B044）
	Cさん：男性なら，女性を好きになるのは当たり前なことで，女性なら，男性を好きになるのは当たり前なこと。これも一般的なことだ。でも，彼らは多分，女性だと女性を好きになる，男性だと男性を好きになるのかね。（C015） （中略） Cさん：もし彼は同性愛者の場合，やっぱり，先ほど言った性別違和になるよね。多分，これも区別の標準になるよね。でも，その中に，もし，特定の，両性愛みたいな，彼氏もok，彼女もokの場合は，こういう特定の例外の場合なら，多分区別しにくいね。（C019） （中略） 面接者：（MTF）の外見について，どんなイメージを持っているのか？ Cさん：うん…ゲイの人は，多分，一般男性よりもっとおしゃれかな。服装とか。なんか，外見を重視している。（C056）
	Dさん：ゲイは性別違和なの？（D014）
理論的メモ	• 性別違和者と同性愛者の定義もしくは概念の違いは何か？ • 性別違和者に対する認識と性的指向に対する認識が重なっている。 • 男女二元制の認識？

Table 4 【性別違和という名称に対する認知】の概念と具体例

カテゴリー	概念名	概念定義	具体例（コード）
人間性	存在の合理性	性別違和の存在を認め，理解している	「世界は広いし，彼らの存在を理解すべき」（A002）「（性別違和は）存在するだけで，合理性がある」（A005） 「（性別違和は）特に法律違反，道徳違反ではない」（A006） 「そういう人（性別違和）の存在はやはり否定できず，認めるべき，尊重すべき」（B009） 「全ての違いは尊重されるべき」（B019）「人間も動物で，彼らも動物である（生き物のため，私たちと同じ存在），多種多様な存在」（D010）「世界は広いし，不思議なものはなんでもある」（E006）
	特別ではない存在	男性または女性と同じ，特別視されてない	「（性別違和は）男女と同じ，特に違いはない」（A003；A007；A011）「みんな同じ人間だから」（B016） 「普通（の人）に見える」（D009）「受容できる，理解できる，みんな同じ人間だから」（E027） 「普通の存在として認識している」（F005）
	特別性	特別な存在	「彼らは特別な存在だ」（E009）
社会認識	社会状況の認識	性別違和の社会生活は一般人より大変という認識	「（彼らの人生は）大変だ」（B014）「やっぱり（社会からの）偏見がある」（B046） 「結構（社会の）偏見が強い」（B047）「LGBより（性別違和の方が）もっと大変だ」（F008） 「多数派の社会では，生活はもっと大変だ」（F008）
	地域認識	中国の地域によって，性別違和に対する容認度が異なってる	「中国の「二線都市」「三線都市」または辺鄙な街に行くと，みんな理解しにくい。でも，北京みたいな「一線都市」に行くと，結構普通なことかも」（D017）「多分「北上広」（北京，上海，広州）などの地域では，多様性が認められるので，性別違和に対する容認度が高いかも」（F053）
	年齢層認識	年齢層によって性別違和に対する容認度と認識度も異なってる	「彼ら（性別違和）に対する若者の容認度は結構高いけど，60，70年代生まれの人たちにとっては，（性別違和の印象は）ちょっとよくない感じがする」（A012）「70％～80％の若者たちは，（性別違和を）一般人として認めていると思う。でも，年上の人たちにとっては，（性別違和は）普通な存在ではないと認識しているのかも」（F053）
定義の不明瞭化	同性愛者との混同	性別違和者と同性愛者の区別がわからない	「イメージを聞かれると，一体ゲイに対するイメージなのか？それともMTFに対するイメージなのか？ちょっと混乱してる」（B044） 「彼らは多分，女性だと女性を好きになる，男性だと男性を好きになるのかね」（C015；C019） 「ゲイの人は，多分一般男性よりもっとおしゃれかな」（C056）「ゲイは性別違和なの？」（D014）
	異性装者との混同	性別違和と異性装者の区別がわからない	「服装倒錯者の可能性もあるね」（A048）「“偽娘”（女装キャラ）っていう言葉もそっち系なの？」（D002）
	恋愛問題に対する認識	性別違和当事者の性的指向問題に対する認識	「自分のことを男性だと思っていると，恋愛対象も当然女性になるだろう」（A016） 「私は男性だけど，心が女性。そして，男性と恋をしたら，これは異性愛だね」（B023；B024） 「男性は女性と結婚し，女性は男性と結婚することは，やはり区別する基準になる。性別違和を区別する基準は，最後結婚したかどうかによるかな」（C010；C011） 「トランスジェンダーの人も，多分，それぞれ違う性的指向がある」（E013;E014）
	性別ステレオタイプ	性別違和当事者に対する性別ステレオタイプ	「心はすごく男性っぽいだけど，外見はまだ女性。服装とかも女性の姿」（D029） 「性格は結構男性っぽいから，性別違和の人だろう」（D035）「（性別違和の人はやはり）ショートの髪形で，あとは，男性の特徴を持っている…ショートヘア，タトゥー，ギブソンシューズ（などの特徴がある人）」（D041） 「言葉遣いも…普段SNSの発信内容から…とにかく男性っぽい。あと，お酒もよく飲むし，タバコも…とにかく，私から見れば，（こういう人たちも）性別違和だね」（D042）

Table 5 【性別違和に対する全体的なイメージ】の具体例

カテゴリー	概念名	概念定義	具体例（コード）
全体イメージ	ポジティブイメージ	楽観的な視点で性別違和の存在を捉えてる	「やはり受容性が高く、受け入れやすい」（B009）「第一印象としては，彼らは勇気がある」（B045） 「みんな自分の心に従っている](B048） 「自分の好きな生き方で人生を楽しんでいるので，理解できる，尊敬する」（E030）
	中立イメージ	中立的な視点で性別違和の存在を捉えてる	「（初めて接触した時）とても不思議な感じがした」（B005）「（性別違和に）好奇心がある」（B008；D007） 「あんまり評価しない，他人事だから」（C008）「（初めて知った時は）驚いた」（D008） 「（最初は）ちょっとおかしいと思った」（E007） 「（初めて性別違和という言葉を聞いたとき）多様性があるなと思った」（F004）
	ネガティブイメージ	性別違和という存在に対して，違和感を抱えてる	「単純に変だなと思った」（B007） 「（最初）ちょっと不自然な感じがした…なんか，変だね.oh my god,こんな人もいるんだ」（B019） 「やはり完全に生まれ持った性別ではないから，ちょっと違和感がある」（B049） 「（初めて友達から聞いたとき）変だなと思った」（C006）「（当事者自身は）たくさんのストレスを抱えている。（ストレスが）彼ら自分の心に影響を与えていると思う」（C017）「最初はちょっと受け入れられないね」（E005） 「トランジェンダーの人たちは，外見にこだわりがあって（外見を重視する）ね」（D020）

Table 6 【FTM に対するイメージ】の概念と具体例

カテゴリー	概念名	概念定義	具体例（コード）
個人面	外見	FTMの外見へのイメージ	「かっこいい顔をしている」（A031；B066）「（手術で）男性に変えたら，やはりちょっと変だね」（E038）
	性格	FTMの性格へのイメージ	「明るい性格」（C059）「（一般人の友達と比べ）もっと繊細（な面がある）かな」（F026） 「とてもデリケートな心を持つ人だなと思った」（F028）
	当事者の自己認識	FTM当事者自身が自分に対する自己認識	「多分（彼ら自身も自分のことを）自然ではない人として認識している」（B055） 「本人の問題が多いね。恋の話ばっかり，仕事上では努力してない感じ」（C037） 「あえて自分の問題を人前で言う必要はないと思う」（C041）
	完全な男性としての認識	FTMを完全な男性として認める承認度	「生理の性別と一致していないので，100％の男性として認められない」（B053） 「（男性として）80％～90％くらい（認める），完全には無理ね」（D061） 「完全ではない，80～90％くらい（認められる）。やはり以前は男性だという意識があるので…」（E034） 「身体構造はまだ女性だから，100％は無理，90％以上（認められる）かな」（F055；F056） 「手術を受けた場合は100％男性だと思う」（F057）

（続き）

カテゴリー	概念名	概念定義	具体例（コード）
社会面	社会生活に対する認識	前向きな視点でFTMの社会生活を捉える・FTMの社会生活の大変さに対する共感	「（FTMは）社会から排除すべき存在ではない」「社会生活はそんなに大変ではないと思う」（A029） 「（社会生活上では）大変そうな感じがしない」（A038） 「特に困っていることはない，毎日楽しく過ごしている」（C059）「普通の女性より付き合いやすい」（E036） 「（彼ら自身の生活は）自由ではない感じがする」（B056） 「苦しみを抱えなければならない，生理的にも苦痛がある」（B057） 「周りからの無理解，疑いなど，認めない声が多い」（B062） 「他人は冷たい目で見たり，嫌味を言ったり，軽蔑な気持ちであざ笑うだろう」（B063） 「性的指向の方から，FTMの方の生活は（MTFより）もっと大変だろう。（FTMにとって）男性は無理だろう。だから生活もそんなに順調ではないと思う」（C063） 「結婚しないと，親からのストレスで大変になるだろう」（C064） 「出産年齢で，ストレスもたくさん出てくる」（C066）「外にいるとき，不便なところがある。」（F027）
	社会的受容度	FTMに対する社会受容度	「（社会の）容認度が高い」（A047）「MTFよりFTMに対する容認度が高く，酷い言葉も多くない」（B064） 「男性っぽい女性は強いイメージがあり，（他人に）軽視される感じは少ない」（B065） 「社会の受容度は高く，好奇心はそんなに高くない」（C045） 「彼らの存在を受け入れることはできる，受容できる。でも，自ら接触することはできない」（D022）
	就労問題	FTMの就労問題	「会社はこういうタイプの人を差別しない…不公平の待遇もしない…一般の人と平等だ」（A034） 「就職の時は，差別されることはない」（A035）「多分，不平等な待遇もある」（B059） 「ほとんど無職の状態」（C035）「不安定な仕事で，収入も低い…仕事に対して努力してない感じ」（C036）
	恋愛対象の可能性	FTMが恋愛対象になる可能性	「多分困る」（C044）「全然OK」（F059） 「恋愛対象はやっぱり元々が女性の人にしたいね。でも，友達，家族とかなら全然問題ない」（E035）
	家庭作り	FTMが家庭を持つ時に直面する問題	「一般人と比べ，出産問題はそんなに順調には進まない」（B051）「“どうやって親の前で説明したらいいの”とか。中国では，子孫が代々家系を継ぐことを重視しているだろう」（C045）
	距離感	FTMとの社会的距離	「距離感（の把握）は大事ね」（D059）
	トイレ問題	FTMが男子トイレを利用する時に対するイメージ	「男子トイレに入っても，特に変な感じはしないね」（F030）

Table 7 【MTFに対するイメージ】の概念と具体例

カテゴリー	概念名	概念定義	具体例（コード）
個人面	外見	MTFの外見へのイメージ	「女性の格好をしている男性を見かけた場合は，ちょっと気分が下がるな」（A033） 「女性は男性のふりをしたら，年上の人たちは気にするだろう」（A035） 「男性がスカートを着用すると，（社会から）排除されるよ」（A037） 「女性の格好をしている男性とあったとき，ものすごく好奇心が湧いてきたよ」（A040） 「初対面の時，女性っぽい服装を着ていると，やはり問題があるね」（A042） 「みんな（彼らを）差別するような目線で見て，（やはり彼らは）ちょっと変態な感じがする（から）」（A046）「あったことないが，やっぱり変だね」（C050） 「（女性の服を着ている男性を見たら，）納得できないね。あれは無理だわ」（C057） 「すごく女性っぽい感じで，女性より艶かしく，セクシーな印象（を受けた）」（D021） 「心理的には受け入れられないね。でも，尊重ならできる」（D047） 「（仕事場で彼らのことを見たら）とにかくびっくりする」（D051） 「ちょっと気持ち悪いね」（D052）「（彼らは）とにかく変な服装で自分を…」（E029） 「明るいカラーのスカートをよく着るイメージ，あるいは，オーバーメイクをしている（感じ）」（F043） 「（外見については）受け入れる」（E028）「普通に綺麗で，面白い感じだね」（F044）
	性格	MTFの性格へのイメージ	「性格は明るい」（C059）
	当事者の自己認識	MTF当事者自身が自分に対する自己認識	「多分（彼ら自身も自分のことを）自然ではないとして認識している」（B055）
	生理的嫌悪	MTFに対する生理的嫌悪	「理由はなく，生理的に嫌」（C055）「性別を変えた人の名前を知るくらいの程度ならまだいいけど，友達は無理だわ，生理的に無理だから」（C062）「自分から接触することはできない」（D022） 「握手程度でも嫌だわ」（D048）「ちょっと気持ち悪いね」（D052）
	完全な女性としての認識	MTFを完全な女性として認める承認度	「完全に100％の女性にはなれない」（B052） 「体の性別と一致してないので，100％の女性として認められない」（B053） 「手術を受けても，80％くらい（認める）かな。やはり，心はちょっと…」（D057） 「100％はちょっとむずかしい，喋る時の声も男性の声だろう。多分，80～90％しかないね」（F048） 「手術を受けた場合は100％の女性」（F057）

（続き）

カテゴリー	概念名	概念定義	具体例（コード）
社会面	社会生活に対する認識	MTF生活の大変さに対する共感	「周りから変な目で見られるね，彼らもストレスを溜めていて，大変かも」（A048） 「そんなに自由ではない感じがする」（B056） 「苦しみを抱えているし，生理的にも苦痛を経験している」（B057） 「“なぜこんな風になったのか”と思う人もいる，“病んでいるの”と思う人もいる，“こういうのはよくない”と思う人もいる…（彼らを）認めない声が多いね」（B062） 「他人は冷たい目で見たり，嫌味を言ったり，軽蔑する気持ちであざ笑うだろう」（B063） 「特に困っていることはない，毎日楽しく過ごしている」（C059） 「他人事なので，干渉する権利もないし，勝手に評価したり，悪口をしたりすることもない」（E029）
	社会受容度	MTFに対する社会受容度	「（社会の）MTFに対する態度は多分もっと残酷」（A047） 「MTFよりFTMに対しての容認度は高い。酷い言葉もそんなに多くない」（B064） 「社会に悪影響を与えなければ，他人を傷つけなければ，大丈夫だね」（E024）
	就労問題	MTFの就労問題	「就職の時は，普通の会社なら，採用したくないだろう」（A043）「多分，不平等な待遇もある」（B059） 「（普段の仕事場であったら）どうしようもないね…（と思う）“出て行け”と言うことはいけないだろう」（D050）
	恋愛対象の可能性	MTFが恋愛対象者になる可能性	「自分と付き合いたいとなると，ちょっとゾッとする」（C051）「私に告白しなければ，まだ良い」（C061） 「家族の場合，友達の場合なら，まだいいけど。でも恋人は無理ね」（D056）
	家庭作り	MTFが家庭を持つ時に直面する問題	「一般人と比べると，出産問題はそんなに順調には進まない」（B051）
	距離感	MTFとの心理的距離	「距離が遠いなら，関わらなければ，全く問題ないけど，もし突然その人にカミングアウトされたら，（心が）崩壊するかも」D055）
	トイレ問題	MTFが女子トイレを利用する時に対するイメージ	「MTFが女子トイレを利用することに対しては全然OK（全く問題ない）」（F051） 「場合によるかな，例えば，トイレに行く場合は，元々体が男性の人が女子トイレに入ったら，納得できない」（A055）「手術を受けてない人が違うトイレに入ったら，やっぱりいけないことだと思う。“なぜそんなことをするの？”と思う」（A056） 「道徳違反ね。外見なら，別にいいけど，でも，トイレみたいなデリケートな問題になると，やはり，自分の体の性別に従うべき」（A057）

を行った。最終的に確定したテーマは，「性別違和に対する非当事者の認知とイメージのプロセス」と設定した。非当事者が持っている認識の中から，性別違和という集団全体または性別違和2つのタイプへの態度の違いを抽出し，分析していく。

概念とカテゴリーの生成手順

分析テーマを確定後，6名分の逐語録を検討し，性別違和に対する認知，FTMおよびMTFへの態度に関連すると考えられる167の具体例を抽出した。そして，意味のわかる文の長さによってデータを分け，コード化した。コード化された具体例の関係性に着目し，類似している内容を集め，概念の定義と概念名を付け，説明概念を生成した。最後に，すでに生成されている概念に，抽出された具体例同士のデータを加え，分析ワークシートを作成した（Table 3）。

分析ワークシートによって生成された36個の概念をそれぞれ比較分析し，概念の統合と分離を繰り返し，理論的飽和化の判断を下し，カテゴリーを作成した。さらに類似しているカテゴリーを抽出し，カテゴリーグループが構成された。最終的に36概念，8カテゴリー，4カテゴリーグループが生成された。

カテゴリー図の生成

上記の手順より，6名のインタビュー内容をカテゴリー化した結果，カテゴリーグループごとに4つのカテゴリー図（Table 4～7）を作成した。以下，カテゴリーグループ，カテゴリー，概念名，具体例は順に【　】，｛　｝，〈　〉，「　」を使用して，カテゴリグループごとに記述する。

カテゴリーグループ1：【性別違和という名称に対する認知】

【性別違和という名称に対する認知】に関しては，性別違和という名称への認知度，知識情報，固有観念などの分類と発言で構成され，3カテゴリー，10概念が抽出された。

カテゴリー1：｛人間性｝

1つ目のカテゴリーは｛人間性｝である。これは，性別違和の存在を一人の人間として認識し，性別違和の存在の意味と在り方を表明している。1つ目の概念は〈存在の合理性〉である。「世界は広いし，彼らの存在を理解すべき」「そういう人（性別違和）の存在はやはり否定できず，認めるべき，尊重すべき」など，性別違和の存在に対して，理解と尊重を表し，性別違和者は合理的な存在だと認めているということが見られた。2つ目は〈特別ではない存在〉という概念である。「（性別違和は）男女と同じ，特に違いはない」「受容できる，理解できる，みんな同じ人間だから」などの発言から，性別違和の存在を認める上に，“変わり者”といったラベルを外し，男性女性と同じ位置につき，普遍な存在であることを主張している。これと反対に，もう1つの概念は〈特別性〉である。「彼らは特別な存在だ」という発言から，性別違和に対する“変わり者”という考え方を保ち，男性女性と区別して存在している人間であることを認識していることが分かった。

カテゴリー2：｛社会認識｝

2つ目のカテゴリーは｛社会認識｝である。これは，社会で生活している性別違和に対する現状認識である。1つ目の概念は〈社会状況の認識〉である。「やっぱり（社会からの）偏見がある」「LGBより（性別違和の方が）もっと大変だ」「多数派の社会では，生活はもっと大変だ」など，性別違和は世間からの偏見を抱えながら，性的少数者として現実社会で生きている大変さを表している。2つ目の概念は〈地域認識〉である。国土面積の広い中国では，経済発達水準や社会に与える影響力などで都市を一線都市から五線都市までランクをつけている。この概念では，経済水準と社会影響力が最も高い一線都市（北京，上海，広州など）と比べ，“二線都市”“三線都市”または田舎の方の容認度と理解度は低くなると考えられていることがわかった。最後として，3つ目の概念は，〈年齢層認識〉である。「70～80％の若者たちは，（性別違和を）一般人として認めていると思う。でも，年上の人たちは，（性別違和は）普通の存在ではないと認識しているのかも」。中国では，若者より年長者は性別違和という名称に対する認知度が低く，性別違和のことを普通な存在として認識にくいという発言が見出された。

カテゴリー3：｛定義の不明瞭化｝

性別違和という名称に対する認知の3つ目のカテゴリーは｛定義の不明瞭化｝である。このカテゴリーでは，主に〈同性愛者との混同〉〈異性装者との混同〉などの発言が数多く見られた。例えば，「ゲイは

性別違和なの？」「“偽娘”（女装キャラ）っていう言葉もそっち系なの？」などがあげられる。また，〈恋愛問題に対する認識〉に関しては，「自分のことを男性だと思っていると，恋愛対象も当然女性になるだろう」「私は男性だけど，心が女性。そして，男性と恋をしたら，これは異性愛だね」と言った内容から，性別違和者は異性愛者になる可能性がより高いという認識が見られた。その一方，「性別違和の人も，多分，それぞれ違う性的指向がある」と言った発言も見られたため，性別違和の性的指向の多様性を受け入れる視点も見られた。さらには，「性格は結構男性っぽいから，性別違和の人だろう」「（性別違和の人はやはり）ショートの髪型で，あとは，男性の特徴を持っている…ショートヘア，タトゥー，ギブソンシューズ（などの特徴がある人）」「言葉遣いも…普段SNSの発信内容から…とにかく男性っぽい。あと，お酒もよく飲むし，タバコも…とにかく，私から見れば，（こういう人たちも）性別違和だね」などの発言から，ある人の性格，外見，言葉遣い，生活習慣なども性別違和の判断基準になっているという認知が見出された。

カテゴリーグループ2：【性別違和に対する全体的なイメージ】

【性別違和に対する全体的なイメージ】に関しては，全体から性別違和当事者へのポジティブイメージ，中立イメージ，ネガティブイメージの分類と発言で構成され，1カテゴリー，3概念名が抽出された。

カテゴリー4：｛全体イメージ｝

最初の概念〈ポジティブイメージ〉では，「第一印象としては，彼らは勇気がある」「みんな自分の心に従っている」「自分の好きな生き方で人生を楽しんでいるので，理解できる，尊敬する」などの発言から，性別違和の存在を認め，生き方を肯定していることがわかった。2つ目の概念〈中立イメージ〉では，「（初めて接触した時）とても不思議な感じがした」「（性別違和に）好奇心がある」「あんまり評価しない，他人事だから」「（初めて知った時は）驚いた」などの発言から，性別違和の存在に対して，容易に評価ができず，中立的視点で当事者の存在をイメージしている可能性があった。また，最後の概念〈ネガティブイメージ〉では，「単純に変だなと思った」「最初はちょっと受け入れられないね」などの発言から，性別違和全体に対しては，容認しにくい，理解しにくいことが考えられる。また，「やはり完全に生まれ持った性別ではないから，ちょっと違和感がある」という内容から，身体性別の先天性に執着が見られ，生まれつきの性別特徴で男女を区別し，性別に定義をつけていることが考えられる。

カテゴリーグループ3：【FTMに対するイメージ】

【FTMに対するイメージ】に関しては，FTMへのイメージとして個人面と社会面から発言が構成され，2カテゴリー，11概念名が抽出された。

カテゴリー5：｛個人面｝

最初のカテゴリーは｛個人面｝である。個体として存在しているFTMに対する認識がまとめられた。1つ目の概念は〈外見〉である。「かっこういい顔をしている」という発言が多く見られ，FTMの外見に対して，好意的なイメージを持っていることが考えられる。その一方，「（手術で）男性に変えたら，やはりちょっと変だね」という考えも見られ，術後FTMの外見に対する好意度低くなることが分かった。2つ目の概念は〈性格〉。「明るい性格」「（一般人の友達と比べ）もっと繊細（な面がある）かな」などの発言から，FTMへの多様な評価が見出された。3つ目の概念は〈当事者の自己認識〉である。これは，非当事者が考えるFTM当事者が持っている自己認識である。例えば「多分（彼ら自身も自分のことを）自然ではない人として認識している」「本人の問題が多いね。恋の話ばっかり，仕事上では努力してない感じ」など，性別違和当事者も常に自分のことを“問題人間”と自覚している，と考えている。最後の概念は〈完全な男性としての認識〉である。つまり，FTM当事者自身が望んでいる性別に対して，社会がどの程度認めてくれるのかという概念である。しかし，この概念に対する発言では，「生理の性別と一致していないので，100％の男性として認められない」「完全ではない，80％～90％くらい（認められる）。やはり以前は男性だという意識があるので…」などの発言が多く見られ，やはり非当事者たちはFTMを完全な男性として認識しにくい現状が見出された。

カテゴリー 6：｛社会面｝

次のカテゴリーは ｛社会面｝ である。ここでは，社会生活，社会受容度，人間関係などの社会側面から FTM へのイメージを検討している。1 つ目の概念は〈社会生活に対する認識〉である。これは，社会生活に対して，「（FTM は）社会から排除すべき存在ではない」「特に困っていることはない，毎日楽しく過ごしている」など，前向きな捉え方で FTM の生活を評価する一方，「（彼ら自身の生活は）自由ではない感じがする」「苦しみを抱えなければならない，生理的にも苦痛がある」「他人は冷たい目で見たり，嫌味を言ったり，軽蔑な気持ちであざ笑うだろう」など，FTM の生活の苦しさに共感している発言も数多く見られた。2 つ目の概念は〈社会的受容度〉。具体例としては，「男性っぽい女性は強いイメージがあり，（他人に）軽視される感じは少ない」「彼らの存在を受け入れることはできる，受容できる。でも，自ら接触することはできない」などの発言から，FTM への社会受容度が比較的高いことが考えられる。3 つ目の概念は，就職するときあるいは仕事するときの〈就労問題〉である。「会社はこういうタイプの人を差別しない…不公平の待遇もない…一般の人と平等だ」「就職の時は，差別されることはない」など，FTM の就労環境問題を高く評価する発言がある一方，「ほとんど無職の状態」「不安定な仕事で，収入も低い…仕事に対して努力してない感じ」など，FTM 自身の仕事問題と仕事態度を指摘し，多様な視点が見られた。4 つ目の概念は〈恋愛対象の可能性〉である。ここでは，非当事者が FTM 当事者を恋愛対象として考えられるかどうかの可能性を示している発言がまとめられた。「多分困る」「恋愛対象はやっぱり元々女性の人にしたいね。でも，友達，家族なら全然問題ない」などの発言から，FTM と友達になるより，恋人にする方はハードルが高いということが明らかとなった。次の概念は〈家庭作り〉である。つまり，家庭を持つときに遭うさまざまな問題である。例えば，「一般人と比べ，出産問題はそんなに順調には進まない」「“どうやって親の前で説明したらいいの”とか。中国では，子孫が代々家系を継ぐことを重視しているだろう」などの発言から，FTM の家庭作りの困難さ，特に子供作りや家名を継ぐ問題を指摘している。6 つ目の概念では，「距離感（の把握）は大事ね」と言った発言から，FTM との〈距離感〉の問題が抽出された。そして，最後の概念は〈トイレ問題〉である。ここでは，トイレに関する発言が多く見られなかったが，「男子トイレに入っても，特に変な感じはしないね」という 1 つの発言から，FTM が男子トイレを利用する時に対する受容度は少し高いことが明らかとなった。

カテゴリーグループ 4：【MTF に対するイメージ】

【MTF に対するイメージ】に関しては，FTM と同じ，個人面と社会面から発言が構成され，2 カテゴリー，12 概念名が抽出された。

カテゴリー 7：｛個人面｝

1 つ目のカテゴリーは ｛個人面｝ である。ここも FTM と同じく，個体として存在している MTF に対する認識をまとめられた。1 つ目の概念は〈外見〉である。MTF の外見に対しては，「女性の格好をしている男性を見かけた場合は，ちょっと気分が下がるな」「男性はスカートを着用すると，（社会から）排除されるよ」「みんな（彼らを）差別するような目線で見て，（やはり彼らは）ちょっと変態な感じがする」「ちょっと気持ち悪いね」といった不快な印象を持っている発言が多く見られた。一方，「明るいカラーのスカートをよく着るイメージ，あるいは，オーバーメイクをしている（感じ）」など，外見そのものだけを注目する客観視と，「すごく女性っぽい感じで，女性より艶かしく，セクシーな印象（を受けた）」「普通に綺麗で，面白い感じだね」と言ったポジティブな発言が見られ，MTF に対して多種多様なイメージを持っていることが分かった。2 つ目の〈性格〉概念は FTM と同じ，「明るい性格」の発言から，MTF に対しても好意的な評価が見出された。3 つ目の概念は〈当事者の自己認識〉である。これも FTM と同じ発言が見られ，MTF の当事者たちも常に自分のことを“問題人間”と自覚していると，非当事者は考えていることが分かった。4 つ目の概念は〈生理的嫌悪〉である。この概念は MTF のみに見られたイメージである。「理由はなく，生理的に嫌」「自分から接触することはできない」「握手程度でも嫌だわ」と言った発言から，非当事者が生理的に MTF の存在を排除し，嫌悪感を抱くことがわかり，自ら接触することも拒んでいることが分かった。MTF の外見に対するよくない印象と関連していることが考えられる。最後の概念は〈完全な女性としての認識〉

である。MTF当事者自身が望んでいる性別に対して，社会がどの程度認めてくれるのかという概念である。発言では，「完全に100%の女性にはなれない」「体の性別と一致していないので，100%の女性として認められない」「手術を受けても，80%くらい（認める）かな。やはり，心はちょっと…」などの発言から，MTFを完全な女性として認識いにくい現状が考えられる。

カテゴリー8：｛社会面｝

｛社会面｝のカテゴリーでは，最初の概念は「社会生活に対する認識」である。「“なぜこんな風になったのか”と思う人もいる，“病んでいるの”と思う人もいる，“こういうのはよくない”と思う人もいる…（彼らを）認めない声が多いね」など，MTFの存在を理解しにくい発言，「他人事なので，干渉する権利もないし，勝手に評価したり，悪口をしたりすることもない」という客観視する発言から，「周りから変な目で見られるね，彼らもストレスを溜めていて，大変かも」など，MTFの生活の大変さに共感する発言まで，非当事者たちは様々な認識を持っていることが見られた。2つ目の概念は〈社会受容度〉である。例えば，「（社会の）MTFに対する態度は多分もっと残酷」「MTFよりFTMに対しての容認度は高い。酷い言葉もそんなに多くない」などの発言から，FTMと比べ，MTFへの社会受容度がより低いことが考えられる。3つ目の概念は，〈就労問題〉。「就職の時は，普通の会社なら，採用したくないだろう」「多分，不平等な待遇もある」「（普段の仕事場であったら）どうしようもないね…（と思う）“出て行け”と言うことはいけないだろう」などの発言から，MTFの就労環境問題における困難と偏見が明らかとなった。4つ目の概念は〈恋愛対象の可能性〉である。ここでは，非当事者がMTF当事者を恋愛対象として考えられるかどうかの可能性を示している。「自分と付き合いたいとなると，ちょっとゾッとする」，「私に告白しなければ，まだ良い」などの発言から，MTFが恋人として考えられる可能性がほとんどなく，MTFに対する嫌悪感を強く示していることが見られた。5つ目の概念は〈家庭作り〉である。ここでもFTMに対する発言と同じで，「一般人と比べ，出産問題はそんなに順調には進まない」の発言が見られ，MTFの家庭作りの困難さを指摘している。6つ目の概念は〈距離感〉である。「距離が遠いなら，関わらなければ，全く問題ないだけど，もし突然その人にカミングアウトされたら，（心が）崩壊するかも」の発言が見られ，非当事者はMTFとの心理的距離がかなり離れていることが考えられる。最後の概念は〈トイレ問題〉である。ここでは，トイレに関する発言が多く見られた。「MTFが女子トイレを利用することに対しては全然ok（全く問題ない）」というポジティブな発言が見られた一方，反対の声はより多く見られた。例えば，「場合によるかな，例えば，トイレに行く場合は，元々体が男性の人が女子トイレに入ったら，納得できない」「手術を受けてない人が違うトイレに入ったら，やっぱりいけないことだと思う。“なぜそんなことをするの？”と思う」「道徳違反ね。外見なら，別にいいけど，でも，トイレみたいなデリケートな問題になると，やはり，自分の体の性別に従うべき」など，MTFが望んでいる性別のトイレを利用することに強い批判を与えた。また，生物的な性別と一致するイレを利用する義務を強く指摘していることが見られた。

総合考察

本研究は，M-GTAを参考にし，性別違和であるFTMとMTFへのイメージを検討するため，中国で働いている6名の非当事者に半構造化インタビューを行った。集めた発言から抽出された36概念を，【性別違和という名称に対する認知】【性別違和に対する全体的なイメージ】【FTMに対するイメージ】【MTFに対するイメージ】と4つのカテゴリーグループに分けて整理した。

まず，【性別違和という名称に対する認知】については，全体から見ると，性別違和の存在を承認し，社会状況に対する理解度もある程度高いことがわかった。しかし，中国地域の経済能力，教育水準などの環境要因，また，多様性理解度などの社会要因により，性別違和に対する認知度のレベルはそれぞれである。特に経済規模が比較的に小さい「三線都市」または田舎、山間部などでは，性別違和に対する知識と情報の普及は不足していることが見られ，理解度が低くなっていることが考えられる。中国のLGBTに対する態度研究にも、小さな町または農村地方と比べ、中等レベルの都会と大都会の方は受容度が高いことが見られている（張他，2012）。そのため，性別違和の定義を理解していない協力者も見られた。例えば，性別違和との接触があると答えたCさんは，

実は同性愛者も性別違和中の一種であることと認識している。A さんは性別違和が服装倒錯者の可能性もあると指摘している。また，男性化女性化の服装，外見，髪型，言葉遣い，生活習慣などの基準で性別を判断し，性別違和の当事者を評価している発言も見られた。よって，中国では，性別違和の存在に対して，敬意を払っている一方，性別違和の位置づけはまだ明瞭されず，認知度もかなり低くなっていることが考えられる。河嶋（2018）が中日大学生の性別違和に対する比較研究でも、日本大学生より中国人大学生が性別違和に対する認知度がかなり低くなっていることを示している。

次に，【性別違和に対する全体的なイメージ】について，当事者の勇気に対する敬意や生き方への尊重などの面を高く評価しているポジティブな印象と，他人事など評価しない発言が多く見られた中立的な印象が，発言の半分の割合を占めていた。しかし，当事者の存在に対する違和感などネガティブな面も大きな発話焦点となり，性別違和という存在に疑問を持っていることが考えられる。

最後の【FTM に対するイメージ】と【MTF に対するイメージ】については，MTF の方は FTM に対するイメージより厳しくなっていることが見られた。まず，当事者が望んでいる性別で生きたいということに対しては，両方とも認められにくい現状が見出された。〈社会受容度〉においても，FTM より MTF の方が社会に容認されにくく，より困難な生活現状が述べられている。〈就労問題〉では，FTM は比較的就職しやすいことに対して，MTF の就労環境はより残酷であることがわかった。そして，唯一，MTF に対するイメージで現れた〈生理的嫌悪〉という概念に関しては，男性からかなり強い嫌悪感が示され，より一層 MTF の生きづらさを表している。発言から，3 名中に 2 名の男性協力者が MTF にする生理的嫌悪感を表明している。よって，男性の調査協力者の方が男女二元論という認識が強く表現していることが考えられる。実際，｛定義の不明瞭化｝というカテゴリーでも，D さんは「（性別違和の人はやはり）ショートの髪形で，あとは，男性の特徴を持っている…ショートヘア，タトゥー，ギブソンシューズ（などの特徴がある人）」ということを語り，強い性別ステレオタイプを示していることが見られた。西野（2011，2014）の当事者インタビュー研究でも、男女二元制は 1 つの環境因子として性別違和当事者の生きづらさに影響を与えていることを示している。そして，MTF に対する〈生理的嫌悪〉と関連しているもう 1 つの要因は MTF に対する〈外見〉へのイメージである。〈外見〉においては，FTM へのほとんどの評価は好感を示していたが，MTF への評価ではほとんど当事者を変わり者として扱っていることが見られた。実際、性別違和当事者に対するインタビュー研究にも、外見に対する概念も数多く見られた。西野（2011）は，FTM の当事者に対するインタビュー調査では，｛自分自身が持つ女性的な特徴｝というカテゴリーにおいては，〈女性的な外見〉という概念も抽出され，「見た目的にも男として通らない段階のときは大変」などの発言が見られた。また，MTF の当事者に対するインタビュー調査では，〈認めてもらいたい〉という概念では，「自分は男じゃない／女性なのに，外見からは“男（性）”と見られることに苦しさを感じ，女性として認められることに必死になること」という発言が見られた（西野，2014）。その結果から，当事者達の外見悩みは実は非当事者の外見発言にも関連している。また，MTF を恋愛対象として考える抵抗感の強さも外見または生理的嫌悪と関連していると思われる。そして，最もデリケートな〈トイレ問題〉では，A さんは MTF の人が女子トイレを利用することを強く批判している。全体から見ると，非当事者たちは FTM と MTF の存在に対して，どちらも尊重できるが，社会生活問題または繊細な現実問題になると，道徳規範，性別ステレオタイプや心理的距離感などの点をより注目しやすい傾向が見られた。また，FTM と比べ，非当事者が MTF に対する好意的なイメージが低く，生理的嫌悪を強く示していることが明らかになった。

今後の課題

本研究では，非当事者に半構造化インタビューを実施することで，非当事者の性別違和に対する認知とイメージのプロセスについて，解釈可能な理論を整理することを目的とした。非当事者の異なる視点から性別違和当事者の抱える現実問題を捉え，研究対象者の調査から理論プロセスの生成まで，複数の概念が得られた。性別違和という集団全体に対する認知，または性別違和当事者である FTM と MTF をよりよく理解し，M-GTA の分析観点から当事者たちが今直面している問題を明らかにし，今後のイメージ尺度を予測する材料として，応用可能性であ

ろう。

しかし，本研究には課題も見られた。まず，研究時間上の都合で，より多くの概念が生成されてないので，厳密な理論的飽和化を成り遂げてない可能性が残る。また，本研究の結果はわずか6名のインタビュー内容によって収集されていたところ，分析テーマのプロセスも十分反応されていない可能性も考えられる。また，M-GTAという研究技法は研究の過程より研究結果の活用性をより重視している（木下・萱間，2005）。しかし、本研究ではまだ研究結果の活用性を言及していない。よって，今後は，本研究で明らかになったプロセスを参照にし，社会が性別違和当事者に対するイメージの解明をよりなすものとして，さらなる研究活動が求められる。

注

1）性別違和の分類は，FTM（Female to Male）、MTF（Male to Female）、FTX（Female to X）とMTX（Male to X）に分類されている。しかし，FTX（Female to X）、MTX（Male to X）という指定されたジェンダーに対する違和感を持ち、表出するジェンダーにおいて男女いずれの性別にも合致しないと自認している人たちは、男女二元制に収まらないため、研究上、主に「Xジェンダー」（X gender）として検討されている（松嶋，2013）。

2）モーメンツ：LINEのタイムラインと同じ機能である。

引用文献

American Psychiatric Association.（2013）. *Diagnostic and statistical manual of mental disorders, 5th edition*（*DSM-5*）. Washington, DC.: American Psychiatric Publishing.（日本精神神経医学会（監修）（2014）. DSM-5―精神疾患の診断・統計マニュアル―　医学書院）

天野佑美・佐々木新・松本洋輔・大守伊織（2019）. 性別違和をもつ患者の診療録から見える学校生活場面での困難さ　兵庫教育大学教育実践学論集，*20*, 39-48.

Chen, B., & Anderson, V. N.（2017）. Chinese college students' gender self-esteem and trans prejudice. *International Journal of Transgenderism*, *18*（1）, 66-78.

陳（2022a）未発表

Gerhardstein, K., & Anderson, V.（2010）. There's more than meets the eye: Facial appearance and evaluations of transsexual people. *Sex Roles*, *62*, 361-373. doi:10.1007/s11199-010-9746-x.

Glotfelter, M. A., & Anderson, V. N.（2017）. Relationships between gender self-esteem, sexual prejudice, and trans prejudice in cisgender hetero-sexual college students. *International Journal of Transgenderism*, *18*, 182-198. http://dx.doi.org/10.1080/15532739.2016.1274932

Hill, D. B, & Willoughby, B. L. B.（2005）. The Development and Validation of the Genderism and transphobia scale. *Sex Roles*, *53*, 531-544.

日向桂子・高田谷久美子・近藤洋子（2007）. 看護学生と他領域の学生の性同一性障害に対する態度や知識と性差観に関する研究　山梨大学看護学会誌，*6*（1），39-44.

福岡欣治（2015）. 大学生の性同一性障害に関する経験と認識―医療事務職になりうる学生に注目して　川崎医療福祉学会誌，*25*，183-192.

東優子（2017）. ジェンダーの多様性をめぐる概念の登場と変遷　女性心身医学，*22*，219-224.

康純（2017）. 性別に違和感がある子どもたち―トランスジェンダー・SOGI・性の多様性　合同出版

木下康仁（2003）. グラウンデッド・セオリー・アプローチ質的研究への誘い　弘文堂

木下康仁・萱間真美（2005）.［修正版］グラウンデッドセオリー・アプローチ（M-GTA）について聴く 何を志向した方法なのか，具体的な手順はどのようなものか　看護研究，*38*，3-21.

木下康仁（2007）. ライブ講義M-GTA―実践的質的研究法　修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチのすべて―　弘文堂

木下康仁（2016）. M-GTAの基本特性と分析方法：質的研究の可能性を確認する 医療看護研究，*13*（1），1-11.

河嶋静代（2018）. 日本と中国の大学生のLGBTに関する意識についての試論的検討（河嶋静代教授 退職記念号）北九州市立大学文学部紀要，*25*，1-46.

松嶋淑恵（2013）. 性別違和をもつ人々の実態調査：経済状況，人間関係，精神的問題について　人間科学研究，*34*，185-208.

町田奈緒士（2018）. 関係の中で立ち上がる性―トランスジェンダー者の性別違和についての関係論的検討―人間・環境学，*27*，17-33.

丸井淑美（2020）. 性的少数者の学校生活の実態と学校教育の課題に関する研究―女性同性愛，男性同性愛，性同一性障害（性別違和）の当事者インタビュー調査より―日本健康相談活動学会誌，*15*，143-152.

森裕子・柳川燿・石丸径一郎（2021）. 改訂トランスジェンダー嫌悪尺度日本語版の作成とトランスジェンダー教育における当事者による授業の効果について：女子大学に通う学生を対象として　お茶の水女子大学心理臨床相談センター紀要，*22*，13-23.

西野明樹（2011）. 性同一性障害を自認する当事者の性別移行のなかに見る社会適応再構築プロセス―FTMへ

の半構造化面接から―コミュニティ心理学研究，*14*，166–189.
西野明樹（2014）．性別違和を有する者の性別移行過程に見られる心理社会的アイデンティティ再構築プロセス―MTF を自認する当事者 16 名との半構造化面接から―コミュニティ心理学研究，*17*，199–218.
Ruble, D. N., Martin, C. L., & Berenbaum, S. A.（2006）. Gender Development. In N. Eisenberg, W. Damon, & R. M. Lerner（Eds.）, *Handbook of child psychology: Social, emotional, and personality development*（pp. 858–932）. John Wiley & Sons.
荘島幸子（2008）．「私は性同一性障害者である」という自己物語の再組織化過程―自らを性同一性障害者」と語らなくなったＡの事例の質的検討　パーソナリティ研究，*16*，265–278.
荘島幸子（2009）．ある「性同一性障害」者の心理的・関係構造モデル：くいちがい・つなぎ・はなれの３つの上位モデルの生成　京都大学大学院教育学研究科紀要，*55*，337–350.
鈴木綾（2018）．FTM トランスの「カミングアウト」における，可視化と受容のポリティクス　岩手大学大学院人文社会科学研究科研究紀要，*27*，35–54.
Winter, S., Webster, B., & Cheung, P. K. E.（2008）. Measuring Hong Kong undergraduate students' attitudes towards trans people. *Sex Roles*, *59*, 670–683. doi:10.1007/s11199-008-9462-y.
Winter, S., Chalungsooth, P., Teh, Y. K., Rojanalert, N., Maneerat, K., Wong, Y. W., … & Macapagal, R. A.（2009）. Transpeople, transprejudice and pathologization: A seven-country factor analytic study. *International Journal of Sexual Health*, *21*（2）, 96–118.
Worthen, M. G.（2013）. An argument for separate analyses of attitudes toward lesbian, gay, bisexual men, bisexual women, MtF and FtM transgender individuals. *Sex Roles, 68*, 703–723.
张沛超・迟新丽・吴明霞・王莎莎・王健（2012）．大学生同性恋，双性恋及跨性别者认知调查（大学生の LGBT に対する認知調査）中国公共卫生，*28*，921–923.

付記

本論文は，以下の抄録原稿に，同一著者らが大幅な加筆・修正を加えて再構成したものである。
陳曦・守谷順・脇田貴文（2020）．非当事者の視点から FTM と MTF へのイメージの違い―インタビューの質的分析によるカテゴリーの生成―日本パーソナリティ心理学会第 29 回大会発表論文集，76.

本研究は関西大学大学院心理学研究科・研究教育倫理委員会の審査を受け，承認を得た。

謝辞

心よくインタビュー調査に協力して下さった皆さんに，深謝申し上げます。

利益相反

著者全員がいかなる利益相反もないことを表明する。

著者分担

第１著者が本研究を発案し，実験の実施，データ分析を行い，草稿をまとめた。第２著者と第３著者は研究デザインと分析計画に助言を行い，草稿の修正を行った。最終稿は３人で確認した。

著者紹介

陳　　曦　関西大学大学院心理学研究科 D3。2019 年 3 月に関西大学大学院心理学研究科前期課程修了，修士（心理学）。2019 年 4 月に関西大学大学院心理学研究科後期課程に進学し，現在在籍中。
守谷　順　関西大学大学院心理学研究科　准教授
脇田貴文　関西大学大学院心理学研究科　教　授
Correspondence concerning to this article should be addressed to Ms. CHEN at chinngi6366@yahoo.co.jp.

要　旨

本研究の目的は，非当事者の視点から，非当事者が性別違和に対する認知とイメージのプロセスを明らかにすることである。協力者は中国本土で働いている社会人，男女各３名，合計６名である（平均年齢 26.8 歳，*SD*＝1.33）。分析では，半構造化インタビューを行い，インタビューデータを得た。そして，修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（M-GTA）を用いて分析した。その結果，【性別違和という名称に対する認知】【性別違和に対する全体的なイメージ】【FTM に対するイメージ】【MTF に対するイメージ】という４つのカテゴリーグループが生成された。さらに，８カテゴリー，36 概念が抽出されていることが示された。

キーワード：FTM（Female to Male），MTF（Male to Female），イメージ，半構造化インタビュー，M-GTA（修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ）